

ユッカの会会報 第27号 平成28年1月21日発行

ユッカの会代表：中 和子 連絡先：横浜市戸塚区上倉田町 2040-121

## 戦後70年目のハプニング

飯田 靖子

ふと見た或る日の新聞記事を凝視した。「引き揚げ時の通帳返還」の文字だ。我が家や従妹家族も終戦



から8ヵ月後、上陸用舟艇か貨物船だったのか記憶は定かではないが、船底に押し込められた状態で、舞鶴港に到着した上海からの引揚者である。

当時有価証券等金銭に纏わる物は、強制的に出港地の在外公館等に預けさせられた話を両親から聞いてはいたが、その種の物が各地の税関に保管されているのを耳にしたのは40年ほど前の事だった。早速横浜税関に問い合わせたが、所帯主の名前のみ聞かれた為、該当物なしとのことだった。

両親や叔父夫婦も既に故人ではあるが、この記事がラストチャンスだとの喚起の声に聞こえ、税関に尋ねたところ、今回は子供の名前も聞かれたのだった。数時間後返ってきた答えはやはり前回と同様であった。ちょっぴり期待感があったが妙に納得できた。しかし、自分が期待していたのは大人達の有価証券等ではなく、小学5年生の

頃、叔父が作ってくれた初めて自分の物として手にした預金通帳だった。当時競馬ファンだった叔父がフランス租界の上海大競馬場で大穴を当て、大金を手にした時作ってくれた物だ。当時、ギャンブルで得た大金は「独占することなく、他にも分け与えよ」の言い習わしがあったようで、父の元で働いていた中国人の従業員達にも男女を問わず分配していたことを昨日のこのように思い出す。叔父から自分名義の通帳を渡された時、急に大人の仲間入りした気分になったことも忘れられない。当時の通貨は儲備券(\*)だったので、残高の貨幣価値は無と思われるが、そんな事は問題ではない。小学生の自分が宝物だと思っていた物を出来ることなら再び手にとって見たかっただけだ。(※儲備券：日中戦争の際、対日協力中国政權の発行した不換紙幣の一種。1941年1月6日開業した新国民政府(南京)の中央儲備銀行が発行した中央儲備銀行券。日本の対中国政策の一環として発行された。ブリタニカ国際大百科辞典より)

しかし、数時間後、貴女名義の分だけ未調査だった事に気づき、検索したところ預金通帳が見付かったとの電話があり、心当たりの有無を訊かれたが、勿論有ると即答した。叶えられるなら、自分が一番手にし

たかったのは正しくその物なのだ。続いて係官からの上海の住所、銀行名等の間に、濼みなく答えられたので、間違いがないので返還しますが、日は追って通知しますということでその日は終わった。

お陰でこの日は上海で過した戦中、戦後の小、中学校（入学4ヶ月後に終戦）時代の思い出が走馬灯の様に浮んできた。3歳の時、当時横行していた人攫いに攫われそうになったり、5歳の時には第二次上海事変の市街戦の為、横浜に帰国避難を余儀なくされたが、入学から三年生までは何不自由なく、毎日を楽しく平穩に過してきた。しかし、あの12月8日未明（太平洋戦争勃発の日）、軍艦「出雲」が英国の軍艦を撃沈させた轟音で飛び起きた。やがて街にはテロが出没するようになり、下校途中非常線が張られ、二、三時間帰宅できないことも屢々あった。そして出征兵士のお見送り、傷病兵のお見舞い、戦死者の英霊のお出迎えの機会が日を追うごとに増えていき、兵士への慰問袋作り、出征将兵の武運長久を願う千人針の呼び掛けにも参加した。遊びも時代を反映し、毬つき、縄跳び等の後は戦争ごっこ、女の子は従軍看護婦役だ。高学年になると、男女の区別なく竹槍突撃、手旗信号、手榴弾投げ、モールス信号（電信符号）の訓練が行われた。昼食のお弁当は内地に倣い一日、十五日は梅干一個だけの「日の丸弁当」になり、水泳の時間プールへの飛込みを怖がる子に、先生の放つ「内地の子に負けるな！」の叱咤激励が飛ぶようになったのもこの頃だ。4年生から修学旅行があり、4年生は日帰りの蘇州見学で、寒山寺で求めた小木魚を叩きながら帰ってきた。5年生は杭州への一泊旅行、

見学の他に兵隊さんの慰問も目的の一つだった。六年生になると二泊の南京旅行だったが、馬賊が出始めたことで取り止めになった。やがて空襲時の避難訓練が行われるようになったが、実際には内地のように敵機襲来に怯えるような事はなかった。しかし、女学校（現中学）入学式当日、校長先生の教育勅語拝読の最中爆撃機の機銃掃射を受けた。パイロットの顔が見える程の近距離からで、生徒は震えたが当時勅語の拝読中止は許されず、終るまで避難は出来なかった。この頃から授業は午前中のみとなり、午後は専ら奉仕の時間に当てられ、軍馬の顔を拭く雑巾作り、傷病兵の衣類縫製、銃弾の薬莖詰め等が主な作業だった。それから程なく終戦に至り、日本人は外出時には「日僑」と印した腕章を巻くことが義務付けられた。やがて帰国命令により集結地に向うことになる。出発時、乳児の頃から母親代わりに面倒を見てくれた阿媽や、長年父の元で懸命に働いてくれた土地っ子の、ボーイと呼んでいた従業員達と泣きの涙で別れを惜しみ、上海を後にすることになった等等である。

それから3週間を経過した頃、戸籍謄本、住民票を提出するよう連絡が有り、更に返還は、郵送か手渡しかを聞かれたが、近頃留守票の誤配が多い為、手渡しを依頼した。程なく再度電話があり、返還式をするに当たり新聞記者の同席の可否を問われが、返還式とは大袈裟などと思いつつ、別に悪いことをした訳ではないので構いませんと答えてしまった。引き揚げ船の到着港、上海での父親の職業等々の質問が有り、記憶を辿りながら答えた。数時間後、返還式の日取りが決まり、その後記者会見をすると言わ

れ渋ったが、ヘルプするからと言われ、止むなく承知した。

返還式当日、叔父の娘である従妹と共に税関へ。予め式進行等の説明をされた後、通された広間は交差した国旗が置かれていて、思わず身を正したくなるような所だった。税関長から恭しく授与の形で手渡された通帳を手に取り、感慨に耽る暇もなく次の広間へ。既にTVカメラマンや新聞記者が大勢待ち構えているが、たじろぐ間もなく着席を促され、記者会見なるものが始まった。70年ぶりに思い出の詰まった通帳を手にした感想を訊かれ、思わず「長い間暗闇に迷い込んだ一匹の子羊が、一筋の光を辿り、やっと飼い主の元に戻ってきたようで、いとしい気がする」と答えていたが、これは、前日級友達と母校講堂正面を飾るスタンドグラス製の「子羊を抱いたキリスト像」が夕日に映える時、一段と美しかったことを懐かしく思い出しながら語っていたことが脳裡に残っていたからだろう。また、「同じ横浜の、そう遠くない所にいながら、どうしてもっと早く探してくれなかったの」と問いかけられているようだと伝えた。

開いてみた通帳の残高の頭には\$マークが付いていた。その横に捺印してある印鑑の文字に見覚えがあった。親同士も親しくしていたご近所のお姉さんが、当時の三菱銀行上海虹口出張所の預金窓口勤めていたのを思い出した。記憶を辿りながら小学校の級友にも聞いて確かめたが、当時の上海の通貨は、中国中央儲備銀行発行の儲備券と称するもので、単位をドルで表していた。紙幣には孫文の半身像が描かれていたのを憶えている。新聞記事に\$マークのことが載った為、読者の方達は皆米ドルと思

われたらしく、現在の相場と照らし合わせ、70年間の利子が付くのとだからさぞかし・・・と言われるのだが、当時敵国であった米国の貨幣が通用していた筈がないと力説しても首を傾げられてしまう状態だ。

今回のことが地方版にしても、4社の新聞ニュースとして取り上げられたのは、終戦70年という節目の年に本人名義の物が、生存中に自ら受け取ることができたのが特異な例だからだそう。最初の記事の翌日、百歳の方から早速問い合わせがあったとのこと、保管物の中には、卒業証書、成績表、遺書等も有るようで、全国から集まった数十万点の未返還の預かり物を、毎年虫干しをしながら保管に努めておられる税関の全国的なPRが望まれる。

中、満からの引き揚げ経験を持つ友人数人に、税関が多く問い合わせを待っていることを伝えた後、全員試みた様だが、残念ながら後に続く幸運者のニュースは未だ耳にしていない。

後日談：通帳受領数日後当該銀行へ。通帳に税関の証明書、新聞記事を添え窓口事情を話し、どう対処するかを尋ねた。若い行員の持参物に目を通した後の開口一番は、「その後、この通帳での出入金はありますか」で嘖然とした。70年を経て戻りたての、しかも海外の現存しない通貨の通帳の意味が分からないのか、正に「戦後も遠くなりにけり」だ。

一ヶ月後、途中経過報告を求めたが、答えは「あらゆる可能性を検討中で、全てが決定



後お答えする」だった。公私共に多くの方々が結果の如何を問わず答えを待っている故、文章での回答を依頼したが、何分にも長い年月を経ている為、資料も乏しく探すのにも困難を極めている状態なので、今年中の回答は無理とのこと、何処まで誠意をもって事に当たってくれるか「結末や如何に」が現状である。 (2015年12月 寄稿)

## 中国領事館での出来事

員 琳蓉

光陰矢の如し、娘が生まれてからまもなく5年になり、パスポートの期限切れで、中国領事館に更新に行ってきました。

前回からは7、8年ぶりでした。六本木にある中国領事館は所在地も建物も以前と変わらずですが、思いもよらない事が幾つかありました。

六本木駅から歩いて、そろそろ到着だと思っているところ、長い行列が見えました。何故入らないで、行列をするのか、疑問に思い、入り口に近づくと、安全検査所を設けている事が分かりました。以前出入りが自由だったけれど、現在は、荷物検査と警備は厳しくなっています。まるで紅葉を見るため、皇居に入る検査と同じぐらいです。平日の9:00から12:00までわずか3時間の受付時間なので、全てのスタッフは「次の方、次の方どうぞ…」と来る人々に催促しています。

家族4人はそれぞれ何回もパスポートの更新をしたことがあるから簡単だと思って

あまり気にしていませんでした。行く前の夜、念のため中国領事館のホームページを開いて、子供のパスポートの更新手続きが変わったことを発見しました。寝る前に慌てて用意しようと思っていましたが、なかなか領事館のホームページに載っていることがよく理解出来なかったので、スムーズに完了しませんでした。前もって撮った写真でも良いのですが、サイズはもちろん人物の頭、胸などきちんと比率が決まっています。かなり技術的な作業で、その上、撮った写真を領事館のホームページにアップロードも必要です。それで、アップロードのクリックボタンを一所懸命何回探しても、まったくなくて領事館で撮らせてもらおうと思い、アップロードをあきらめました。以前、住民票が要らなかったのに、今では、家族全員が載っている住民票が必須になり、父母両方が一緒に付き添って行くわけです。どちらかが欠席の場合は、日本にある公証人役場が出した委任状が要るのです。父母両方の出席の必要性が良く分かりません。これは、一部の家庭にとって手数になるでしょう。

私達は、住民票を用意してなかったので、当日横浜駅のみどりの窓口ですぐ解決し、それと父母両方と娘とで三人のパスポート、在留カードと色々なコピーなど必要な書類を一緒にもって行きました。安全検査が終わって、領事館に入り、受付の前で並んでいました。私達の番が来たので、領事館の人に家で撮った写真は使えるのか？何故アップロードができないのか？と私は質問したのです。そうしたら、受付の人は、早く済ませたいと思っていて説明もなく、ただ、「それはいいです。後で、上のリーダー

に伝えます」と簡単に言ってただけです。えっ、それは、なに？もし、写真のアップロードが既に要らなかったのなら、どうしてネットにまだ載ったままなのか私は質問をしたいのです。

受付が終わって順位番号をもらって申込書に記入し待っていました。暫く経って呼ばれたら、やっぱり、三人一緒に窓口に出なくてははいけません。それで、書類を全部提出後、出来たら郵送ができますが、着払いで送料は約1500から2000円ですと領事館の人が言ってくれましたが、えっ？高いなと私はまた新たな疑問が湧きました。

子供の両親二人とも付添って来てもらうのは一番問題だと思います。その内の一人が出張に行ったら、入院したら、子供が生まれたばかりだったら、一人で行くのに委任状を公証人役場で作る時間がなかったら、等々の可能性があれば、如何するのでしょうか？

中国領事館は平日午前中ただ3時間の業務時間で、どうすれば、有効利用ができるのか考えなくはいけません。庶民の立場に立ち、配慮し、早く改善するように期待しています。

## ごしょうがけおんせん 後生掛温泉

張 琳

後生掛温泉の地理は、秋田県と岩手県の県境付近にある海拔1000mの十和田八幡平国立公園内に位置する温泉です。八幡平の秋田県焼山東麓の谷間、あがる湯



けむりが目印です。「箱蒸し風呂」「泥湯」は女性にも人気です。

私は、テレビのニュースで知りました。この温泉は腰痛や神経痛に効く超有名な温泉です。常年温泉で療養するお客様がたくさんいます。予約はなかなか取れないです。

2年前の5月、主人といっしょにこの温泉に行きました。東北新幹線で盛岡まで行って、そこからレンタカーを借りて、5時間くらいかけてやっと後生掛温泉に着いた。途中の道は堅い雪の壁が5mもあり、また雪と霧が出てとても怖かった印象があります。

温泉はとても気持ちよくて、お食事也非常においしかった。野菜中心で、味付け非常に上品でたまりません。

2泊3日の旅行、楽しかった。皆さんも一度行って見たら如何ですか？

## 伝えることの難しさ

中村 明子

今年は戦後70年の節目と言うことで、新聞、雑誌、テレビの番組、映画、演劇など様々な分野で特番が目立った。なぜ70年がことさら節目なのかよく分からないが、戦争終結から70年も経つと世代の交代が進み、戦争を経験していない人達の関心が薄れてきているのは確かで、ここいらで過去を振り返り事実認識をしっかり記憶の中に呼び戻さねばと言う、ある種の危機感の現われではないか。

私も戦争中はまだ小学生で何も分からないまま先生の教えをひたすら信じて、いっ





ぱしの軍国少女だったが、敗戦と同時に襲ってきたあの記憶は生涯忘れることなどあり得ない。

終戦の時旧満州国新京(現在長春)で生活していた私たちは、1945年8月9日までは、空襲も知らず内地(日本本土)よりも食料その他ずっと恵まれた暮らしだった。それが8月9日の突然のソ連軍侵攻と共に夢想だにしなかった境遇に置かれたのだ。それから日本に引き揚げるまでの悲惨な状態はもうこれまでも随分語られ、書かれ、伝えられている。

私も終戦から満洲引き揚げ、日本に帰ってからの辛い生活を子供たちに伝えて行かなければと、折に触れ何かと話して聞かせてきた。しかし子供が小学生高学年になったころ「もうそんな話何回も聞いたよ、うるさいよ」と拒否するようになった。私は愕然とした。私が伝えようとしたことは子供等にとって、どこか関係ないところで起こった単なるおはなしとしか受け取られていなかったのか。あるいは何度も聞かされているうちに母親の自慢話めいてとらえられていたのかも知れない。

それから私は子供等とそんな話は一切しなくなった。やがて孫が生まれてその子らが何不自由なく育っていくのに再び危機感を覚えた。ある時家族で旅行に行った時丁度良い機会だと思い小学生の孫たちに「お祖母ちゃんの昔貧乏で戦争でひどい目にあったお話してあげるね」と切り出したとたん息子から「止めてくれよ。そんな話折角の楽しい旅行が暗くなるじゃないか」とストップをかけられてしまった。孫たちも「お祖母ちゃん、トランプしようよ、ゲー

ム教えてあげる」とすっかりお遊びムードで乗ってこない。

次の世代、その次の世代に伝え受け継いでもらうことの難しさをつくづく感じて、今年の何やら嫌な予感のする世の中の動きにますます不安な気持ちに落ち込んでいるが、これで良いのだろうか。

## 日本に来てから初めての運動会、最後の運動会

畠山 美咲穂(中1)

私は小学校6年生のときに日本に来ました。そして、初めて運動会に参加しました。



運動会には、運動準備委員会の仕事、競技、演技などやるものがたくさんありました。

まず、スローガン委員会。「みんなと協力、えがおで優勝だ！」に決まるまで、4回話し合いました。難しかったけれど、決まってよかったです。決勝審判は、走ってくる人の人数が多くて分からない時もありましたが、がんばりました。

次に、競技。たてわり競技のつな引きも大玉転がしも負けないように全力でがんばりました。でもつな引きは負けてしまい、くやしかったです。

そして、演技。ダンスは、みんなは5年生の時にすでに学んでいました。私一人だけやったことがないのでわからないところばかりでした。でも、みんなが教えてくれました。とても優しく、分かりやすかったです。みんなのおかげでダンスは成功しまし

た。うれしかったです。組体操の練習では、「絶対に本番で成功するんだ」という気持ちでがんばりました。二人技のサボテンは難しく、なかなかできなかったので心配でした。けれども本番では成功させることができました。みんなすごくがんばりました。

この運動会は、みんなにとっても私にとっても最後の運動会。みんなも私もすごくがんばったと思います。

これが私の小学校の運動会でした。

## 日本の夏

廖 忠

日本の夏は特別な  
雰囲気漂っている。

日本の夏はいつから始まるのか。梅雨からか、それとも梅雨明けからか、はっきりわからない。梅雨は夏の序曲といってもいいだろう。梅の実は熟れて、梅酒を作る季節になる。



丸くて青い梅とともに夏の訪れを告げるのは紫陽花だ。

梅雨の長雨が降り続けているなか、紫陽花はあちらこちらで咲き始める。ピンク、水色、青色など紫陽花は人目を引く。紫陽花はたいてい群生してたくさんの花

が同時に咲き時々道端は一面の紫陽花で飾られている。そんな紫陽花は憂鬱な梅雨の時期の気晴らしをしてくれる。



梅雨が明けたら、もう七月だ。お盆の準備が始まる。御先祖様を祭る蓮の葉や、提灯や、お野菜、果物等が店に並んでいる。その雰囲気の中で、皆さんが楽しみにしているのは、やはり夏祭りだ。

夏祭りは夏の一番の行事だ。地域の皆さんは協力して、屋台を出し、ゲームや、盆踊りなどいろいろなイベントをする。



以前、私は夏祭りに参加したことがある。中国の餃子の屋台を出すということになった。大変だったけど、結構楽しかった。皆さんを集めて、どんな餃子を作るか、餡は何にするのかなどいろいろ考えた。当日は作り手が少なかったけど、やっているうちに、ひとが段々増えてきて、しゃべりながらつくった。知らない人も

作る輪に入っていたのに、違和感が全然なかった。



私が夏祭りの中で一番楽しかったのは、やはり盆踊りだ。木々の間に提灯をかけて、地面に奠座を敷いて、会場の中心に舞台を組み立てる。夏の夜がやってきて、盆踊り大会は始まる。浴衣を着た老若男女は舞台上の踊り手を真似て、太鼓のリズムに合わせて踊る。輪になって、踊りながら前に進む。舞踊の曲はたいてい昔の民謡で、緩やかで悠長だから、昔の皆さんの暮らしぶりが想像できる。「踊る阿呆に見る阿呆」

踊らぬ阿呆たちは座って、飲んだり、食べたり、喋ったりして、のんびり夏の夜を楽しんでいるようだ。



八月になると、日本全国で花火大会が行われる。花火大会を見に行く若い女の子たちは浴衣を着て、和風の手提げを持ち、下駄

を履いて、頭に簪や花を飾って、町中を歩き回る。「歩く姿は百合の花」の様だ。

花火の打ち上げは夜空をきれいに照らす。それに伴って、夏の曲はそろそろフィナーレとなり、鈴虫の鳴き声が耳に入る



と、もう秋の序曲が始まる。

風鈴、浴衣、花火、盆踊りなどは日本の夏ならではの風物詩だ。

## 犬と暮らす

水本 みゆき



小さいころから動物と暮らすのが夢だった。小学校の時、帰り道で段ボールに入れられ捨てられていた小さな子犬を見つけ、親に「飼わせてほしい」とねだったこともあった。だが、私の実家は自営業の酒屋だったので、両親に「食べ物を売っている店で動物は飼えない」と言われ泣く泣く諦めた。結局その子犬は同級生の家に引き取られ、みんなで会いに行っては、飼う事になったその子を羨ましがっていた。

大学生になって横浜に出てきたのだが、住んでいたのは賃貸のワンルームマンションで、もちろんペットは飼えない。大学卒業後は就職して会社の寮に入ったので、もちろんここもペット不可。結婚してからは主人の会社の社宅に住んでいたため、やはり動物と暮らすことはできなかった。

ただ、主人の実家では犬を飼っていたので、結婚後は帰省するたびに犬と暮らす雰囲気味わう事が出来た。名前は「チョコ」。



シバ犬と北海道犬のミックスで、日本犬気質そのもの。かなり気性が荒く、家族以外にはなかなか慣れない犬だった。年をとるにつれてだんだん性格が穏やかになったこともあったと思うが、チコはだんだん私を認めてくれるようになり、私たちは仲良くなった（と私は思っている）。近づいても吠えられなくなり、二人で散歩に行けるようになり、私の指示を聞いてくれるようになった時はうれしかった。チコは19歳まで生き、最後は義父母に抱かれて静かに息を引き取った。外飼いの中型犬がこんなに長生きできたのは、やはり義父母の愛情のたまものだと思う。

6年前、ついに自分たちの家を持つことになり、念願の犬との暮らしが可能になった。

どんな犬種を選ぶか家族みんなで話し合った。ペットショップにいろいろな犬を見たりもした。



最終的に、私たちは保護犬を迎えることになった。インターネットの里親募集サイトで主人が見つけた子犬に家族みんながとりこになったのだ。犬を預かっているボランティアさんのお宅にお見合いに行き、家族として迎えることを決めた。

保護犬とは、捨てられた、逸走してしまったなどの理由から飼い主がいなくて保健所

（動物愛護センター）に一時的に保護されている犬のこと。一定の保護期間の間に、飼い主が引き取りに来るか、新しい飼い主が見つからなければ殺処分にされてしまう。

「命を救いたい」とか何か崇高な意志を持っていたわけではない。正直、犬にそんなに高いお金をかけられないと感じたことも理由のひとつだった。

その時までまったく知らなかったのだが、日本全国では毎年10万頭もの犬猫が人間の勝手な都合で殺処分されているのだという。最近では、行政も保護した犬猫の譲渡に力を入れており、神奈川県動物愛護センター（横浜・川崎・藤沢市などを除く県全域が対象）など、殺処分ゼロを達成した自治体もいくつかある。また、動物保護団体なども行政と協働で保護された犬を引き取り、里親探しをしている。だが、残念ながら横浜市はまだ犬猫とも殺処分はゼロではないようだ。

我が家の家族となった保護犬もそのようなボランティア団体を経由してやってきた。

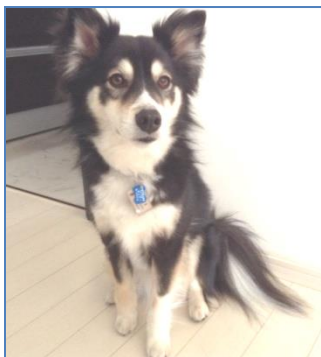
初めての犬との暮らし。名前は家族全員の投票で「ナッツ」に決まった。

3か月の子犬はとても小さくて、はかなげで、最初のころは朝起きた時に子犬が息をしているかどうかドキドキしながら確かめていた。知らない場所に連れてこられ、知らない人に囲まれて怖がっていたナッツも、次第に私たちになれ、我が家になれ、やんちゃな子犬ぶりを発揮し始めた。

サークルで留守番をさせた時には、自分のベッドをおもちゃにしてかみちぎり、帰ってきたときにはサークル中が白い綿で

いっぱいになっていた。ソファの下でおとなしくしているなあと思ったら、壁紙をはがしていたこともあった。部屋のドアの枠が気になっただけで、かじって中の木が見えるほどめくってしまったこともある。新築の家なのに！！

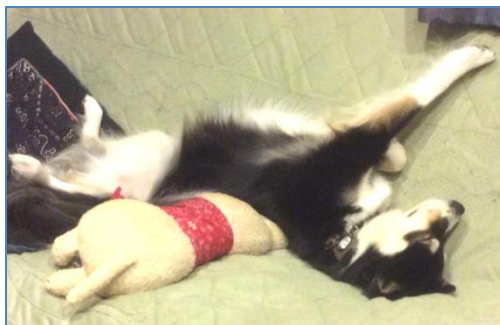
そんなはずらもかわいくて仕方がないので、相当な親(?)ばかである。



やんちゃぶりは成長とともに息をひそめ、ナッツは落ち着いたおとなしい犬になった。あまり愛想がなく、自

己主張も強くないので、遊びに来た友達には「存在感がない」とよく言われる。ただ、飼い主本人が言うのもなんだが、かなりかわいい(笑)ので、散歩の途中すれ違う人に「かわいいですね」とか「犬種は何ですか?」などとよく聞かれる。それに、外では見せない甘えたしぐさや

安心した寝姿を、家の中でだけ、家族にだけ見せるところも本当に愛らしい。飼い主冥利に尽きるというものだ。



ナッツは今6歳、人間でいえば40歳前後の落ち着いた熟女というところだろうか?

毎日の散歩や、歯磨きブラッシングなどの世話、食費や医療費などの出費、犬と暮らすと大変な面倒なことも確かに多い。これから年をとって行けば、それこそ介護などもっと大変なことも多いだろう。でもやはり犬と暮らしていることで、もらったもの、得たもの、助けてもらっていることの方が多と思う。犬と暮らせる幸せを日々かみしめながら過ごしていきたいと思う。



# ジュエルペット

畠山 美咲 (小2)

このまえ、ジュエルペットがわたしをみにきました。いっぱいきました。わたしはよろこびました。ずっといっしょにいました。いっしょにあそびました。うれしかったです。



(印刷では白黒になってしまいますが、実際の絵は、色鉛筆できれいな色が塗ってあります。ぜひホームページでご覧ください。)

## 大悟♡愛してるよ♡

緒方 あかね

本当に大悟が大好き！大悟はわたしの“たからもの”です！でもなぜわたしはときどき怒ってしまうかわかりません。



わたしは自分の好きなことのために、大悟に一人で遊びをさせました。

大悟は話したいときや一緒に遊びたいときにわたしのところにやってきます。でもわたしはときどき嫌です。

あるときは大悟にものすごい大きい声を出しました。大悟はびっくりしました。かわいそうですね！

でもわたしは後悔したけど次また怒りました…。わたしは本当にダメですね！今本当に反省したいです！

大悟はすごく賢くて、すごく楽観的な性格の子どもですね！

わたしがあんなに怒りっぽくしても、大悟はまだ優しくしてくれます！一人でも喜んで遊びました！

わたしは自分の時間を大悟にいっぱいいっぱいあげたほうが良いじゃないですか！！

わたしは本当にわがままな人ですね！大悟は3歳です。わたしは2歳みたいです…。

大悟はあと1ヶ月ぐらいで幼稚園に行きます。その後小学校、中学校…

だんだん大きくなってだんだんわたしと遠くなると思います。

大悟と本当にずっと一緒にいられる幸せな時間は今だけです！

大悟、ママはもう分かりましたよ。本当にごめんなさい！

今日から早く良いママに成りたいですね！大悟が大きくなったら、わたしには自分の時間がまたいっぱいありますね！

好きな事は何でもできますよね。

今大悟が一番大事ですね！大悟の人生の中で今はママが一番必要なときですね。だからわたしもちゃんと大悟に愛情たっぷりにしたいですね！

大悟が嬉しくなるように優しくして、時間を大悟にいっぱい いっぱいあげます！

今から本当に決めました！！！！

大悟、ママの良い子！ごめんなさい！

愛してるよ♡

これから一緒に遊びます！一緒に話します！本当に良いママに成りたいです！

## 「戦後70年」に思うこと

星 ノブ



終戦のとき、私は会津若松市の女学校二年生だった。上級生の三年生、四年生は少し離れたところにある化学工場に勤労働員で出勤していた。学校に残った私たちももう授業はなく、校庭の隅に防空壕を作ることが仕事だった。

だが、防空壕作りはあまりはかどらず、いつそのこと校庭を耕しても畑にしたらいいのではないかということになった。当時食糧不足で、みないつもおなかを空かしていた。

そうと決まったら、みな一生懸命、校庭の固い土を掘りおこし、その勢いで隣接する鶴ヶ城跡の西出丸や本丸の土地まで畑に



してしまった。そしてさつまいもの苗を植えて、交代で水をやったりして育てた。

夏休みの間に終戦の放送があり、戦争は終わった。

二学期にまずしたことは、教科書の不都合な箇所<sup>箇所</sup>に炭を塗って消すこと。だが、その教科書もすぐに没収され、トラックの荷台に乱暴に放り込まれて持ち去られた。まだ使っていない真新しい教科書だった。

教科書がなくても先生方はいろいろ工夫して授業をして下さった。どんなにか本来の仕事である授業をしたかっただろうと思う。私たちも勉強したかった。

秋になってさつまいもを収穫した。そんなにいい出来であったわけではないが、全校生徒、先生方も含めて公平に分配した。残った葉は自由に持ち帰っていいということになった。私はたくさん摘んで持ち帰り、下宿のおばさんを喜ばせた。食糧事情は終戦の翌年の方がひどかったように思うが、校庭や城跡の土はもとのように埋めもどされた。

空襲のときは城跡の土手に避難した。飛行機は高く飛んで、そんなに恐ろしいとは思わなかった。私の戦争体験で一番深く心に残っているのは「飢餓」だろうか。それは今も消えない。

東京も横浜もその他の都市もひどい空襲を受けたことがわかった。食糧事情も悪かった。原子爆弾の恐ろしさ、同僚には原爆症の人もいた。次第にこの戦争は一体なんだったのかと思うようになった。知覧の特攻基地へ行くと、展示されている兵士たちの遺書を読んで涙する人が多いが、私は

壁面いっぱい<sup>壁面</sup>に飾られている兵士たちの写真を見ているうちに、ふつふつと怒りがわいてきた。このような愚かなことを、一体誰が考え出し、実行させたのだろうか。

先日、老人会で私の隣席にいた人から戦争中の話を聞いた。富士市に疎開していたとき、艦載機<sup>かんさいき</sup>が低空飛行してくるのを、ともろこし畑に逃げて、「動かないで！」と先生に言われて息をつめてじっとしていたときの恐ろしさ、「本当に恐ろしかった」と話してくれた。そして「体験した人でないとわからないでしょうね」と言った。

そのとき私は、ユッカの会に勉強に来ていたタイの少女Oさんのことを思った。Oさんは私立高校三年生。期末試験の日本史の出題範囲が満州事変から終戦までだった。Oさんの日本語理解力はまだ十分とはいえないし、内容も難しいなあと思ったが、Oさんは熱心だった。大事なことをよく理解した。そして「反対する人はいなかったのですか」と言った。私は咄嗟<sup>とつさ</sup>に「いたのよ。だけど、そういう人はみな牢屋に入れられたの」と言ってしまった。Oさんの真剣な問いに対して、この答えでよかったのだろうか。ずっと気にかかっている。

Oさんは学校で勉強し、教科書をよく読んで、わからないところを私に質問した。そして事実を理解しただけでなく、戦争の理不尽さ、悲惨さを感じとった。関心を持ち、わかろうと努力することが大事だと思う。無関心が一番いけないと誰かがいっていたが、私もそう思う。



## 私の故郷

竹内 梅



今年、私と主人は故郷に帰りました。主人は九年ぶりに帰ったので、何でも新鮮でした。

本当に、故郷は随分変わりました。故郷は私が日本に来るまえは、電話がないし、水道もないし、田舎の作業が殆ど手作業だったので、生活の大変さは考えられないほどでした。

しかし、故郷は一つずつ変わっています。おとしに比べると、今年のほうが大きく変化がありました。道路は全部コンクリートで舗装されていました。各所にごみ箱を設置していました。毎晩、村役場には音楽が流れ、広場で踊りを踊りました。また、運動会に参加するために、村役場ではバスケットボールの試合もはげしい練習をしていました。故郷はまるで女性が素顔から綺麗に化粧した後のように以前と違ってました。



農家の話になりますが、トウモロコシ畑は故郷の特徴的なものでした。今、農作業は機械がしているので、各家庭はたくさんトウモロコシを植えることができます。妹

は夫婦二人で260畝も植えました。中国の1畝は6.667アールです。



これは妹の家が持っている機械です。この機械はトウモロコシが実になった後、実を取る為のもので、トウモロコシ脱穀機と言われます。この機械のおかげで、素早く収穫ができました。



建築の現場でよく見たショベルカーが家庭では運搬の道具になりました。他の機械もいろいろな所で役に立っていました。現在、故郷の農民たちは科学の技術を利用しながら、誰にも負けないように裕福な生活を求めて一生懸命頑張っています。



## 着実な歩みを・・・

中 和子



寒中お見舞い申し上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか？

この1年、目を覆いたくなるような、耳をふさぎたくなるような出来事が次から次へ・・・あたたかな春の到来とともに明るい話題が増えることを願う毎日です。

ところで、昨年は戦後70年、節目の年、年明けから帰国者数人に共同通信の取材があり、福島日報やハワイ報知という英字紙で紹介されました。また、年末、中国帰国者定着促進センターから電話での聞き取りがありニューズレター12月28日号「同声同気」に「ユッカの会の今」と題して活動の一部が紹介されました。

さて、ユッカの会の活動ですが、はじめて「春の教室」を戸塚で実施。

補習教室、日本語教室、パソコン教室、交流イベントについては毎月の運営委員会で検討され、会員の方々の御協力をいただき、実施後の報告も毎回確実に行われ、次回へとつなげています。ユッカの会の活動はこの指とまれ方式で企画、実施されます。その過程では真摯に内容が議論され、運営委員全員の納得の上で実施される・・・。手間と時間はかかりま

すが、この運営方式が活動をより確かなものにしておりと自負しております。一例ですが、今月の委員会でも3月行われる理科実験教室、担当者から完成品が紹介され、委員全員がモーターの原理を学びました。委員会では2か月も前から実験を楽しんでいるんです。子どもたちはもちろん、楽しさを、達成感を多くの仲間と共有する、最高の贅沢かもしれません。

イベントなど配布資料などではやさしい日本語での情報提供も意識的に行われるようになりました。活動の予告・報告もホームページを通して分かりやすく、皆様のお目に触れるようにと心がけております。

「たより」は会員の皆様が気楽に寄稿し、楽しい読みものとして好評です。

皆様の思いを、学びを、お楽しみを・・・何でもありで、伝えあう「たより」として年に1度お手元にお届けしてまいりました。日本語教室での作文や、自分史を書かれた方、書き溜めたものをお送りください。次号のたよりで皆様にご紹介したいと存じます。

皆様のユッカの会への思いをお聞きしながら、この1年も着実な歩みを続けたいと思います。

どうぞご協力よろしくお願いいたします。



### <これからの教室活動>

#### 1. 補習教室（横浜・戸塚・本郷台）

問い合わせ：岩松文江（045-922-4987）、水本みゆき（090-6136-2457）

#### ・集中教室（春の教室）3月26日（日）10:00～

フォーラム2階 セミナールーム2、3（JR戸塚駅から徒歩5分）

#### 2. 日本語教室（横浜・戸塚・本郷台）

問い合わせ：木野美穂（090-5766-7853）

#### 3. パソコン教室（横浜）

問い合わせ：中和子（080-5520-9441）

### <これからの交流活動>

#### 1. 成人を祝う会 2月14日（日）12:00～ 県民センター 709号室

担当：日向（045-571-6266）

#### 2. 安全講習会 2月21日（日）10:00～ あーすぷらざ

「よくわかる マイナンバー」

税理士の大口保則さんがマイナンバーについて教えてくださいます。

勉強のあとは、みなさんでお昼を作って食べます。

学習者にもお声かけいただき、ぜひご参加ください。

\*詳細は、同封のチラシをご覧ください。

#### 3. 市民活動フェア2015 3月12日（土）、13日（日）県民センター

スピーチ会 3月13日（日） 13:00～ 1501号室

担当：波多野（045-572-8237）、水本（090-6136-2457）

\*参加者募集。同封のチラシをご覧ください。

#### 4. 理科実験教室 3月27日（日）10:30～ 県民センター305号室

担当 岩松（045-922-4987）、水本（090-6136-2457）

#### 5. 卒業を祝う会 3月27日（日）12:30～ 県民センター604号室

担当 岩松（045-922-4987）、水本（090-6136-2457）

詳細は、随時ご連絡します。ホームページもご覧ください。

ユッカの会ホームページ：<http://yukkanokai2014.web.fc2.com/>